

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 関西医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）

【設置の趣旨・目的等】

1. 「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の1. 1. 「3）養成する人材」において、本課程の「在学中に取得することを期待する行動特性や能力を、8項目のコンピテンシーとして設定している」ことが記載されており、各ディプロマ・ポリシーと各コンピテンシーとの関係が示されているほか、同書類の3. 「2）教育課程の編成の考え方」では、各授業科目とコンピテンシーの関係が示されている。しかしながら、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーのそれぞれの項目が一对一で対応しているものではなく、その関係についての説明もないことに加え、各コンピテンシーとカリキュラム・ポリシーの関係も示されていないことから、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性が判然とせず、ディプロマ・ポリシー達成のために、適切なカリキュラム・ポリシーが設定されているのか判断することができない。このため、ディプロマ・ポリシーに整合したカリキュラム・ポリシーが適切に設定されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて関係する資料の記載や図など含めて適切に改めること。（是正事項）・・・3

【教育課程等】

2. 審査意見1のとおり、カリキュラム・ポリシーの妥当性について疑義があるため、教育課程が適切に編成されているか判断をすることができない。このため、審査意見1への対応を踏まえて、本専攻の教育課程が、適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的に担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・10
3. 基本計画書の「教育課程等の概要」の専門教育科目には「保健医療科学基盤講義」、「保健医療科学実践演習」、「保健医療技術開発学基盤講義」、「保健医療技術開発学実践演習」、「保健医療技術開発学臨床演習」について、それぞれ1つの授業科目を複数の専任教員等によって共同で行うものとして記載されている。しかしながら、各授業科目のシラバスを見ると、例えば、「保健医療科学基盤講義」については担当教員と内容の異なる3種類のシラバスとなっており、基本計画書の「教育課程等の概要」で記載されたような1つの授業科目を複数の教員が共同で行うものとなっていないように見受けられる。また、授業内容が異なるのであれば授業名称を分けることが適切であり、授業内容が異なる同一の授業科目名称は履修する学生にとってもわかりづらいものであり、妥当であるとは判断できない。このため、担当教員ごとに異なる授業内容を、同一の授業科目として設定することの妥当性について明確に説明するとともに、必要に応じてシラバス等の関係する資料の記載等を含めて適切に改めること。（改善事項）・・・13
4. シラバスを見ると、多くの授業科目の「成績評価方法と基準」において、「授業への取り組み、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する」と記載されているが、各授業科目において、授業への取り組み度や、プレゼンテーション能力をどのような基準や方法により評価するのか記載がなく、「成績評価方法と基準」として適切な記載となっているのか判断することができない。また、各授業科目における評価全体に対する、それぞれの評価基準の配点割合なども示されていないことから、どのような点を重視して評価するのか、学生が履修するに当たって適切に理解できるも

のとなっているとは判断できない。このことから、授業科目ごとの評価の基準や、評価全体に占める具体的な評価基準ごとの配点割合などを明確に説明するとともに、必要に応じてシラバス等の関係する資料の記載等を含めて適切に改めること。
(改善事項)・・・16

【教員組織】

5. 研究指導補助教員数について、大学院設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。
(是正事項)・・・19

1. 「設置の趣旨等を記載した書類(本文)」の1. 1. 「3) 養成する人材」において、本課程の「在学中に取得することを期待する行動特性や能力を、8項目のコンピテンシーとして設定している」ことが記載されており、各ディプロマ・ポリシーと各コンピテンシーとの関係が示されているほか、同書類の3. 「2) 教育課程の編成の考え方」では、各授業科目とコンピテンシーの関係が示されている。しかしながら、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーのそれぞれの項目が一对一で対応しているものではなく、その関係についての説明もないことに加え、各コンピテンシーとカリキュラム・ポリシーの関係も示されていないことから、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性が判然とせず、ディプロマ・ポリシー達成のために、適切なカリキュラム・ポリシーが設定されているのか判断することができない。このため、ディプロマ・ポリシーに整合したカリキュラム・ポリシーが適切に設定されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて関係する資料の記載や図など含めて適切に改めること。

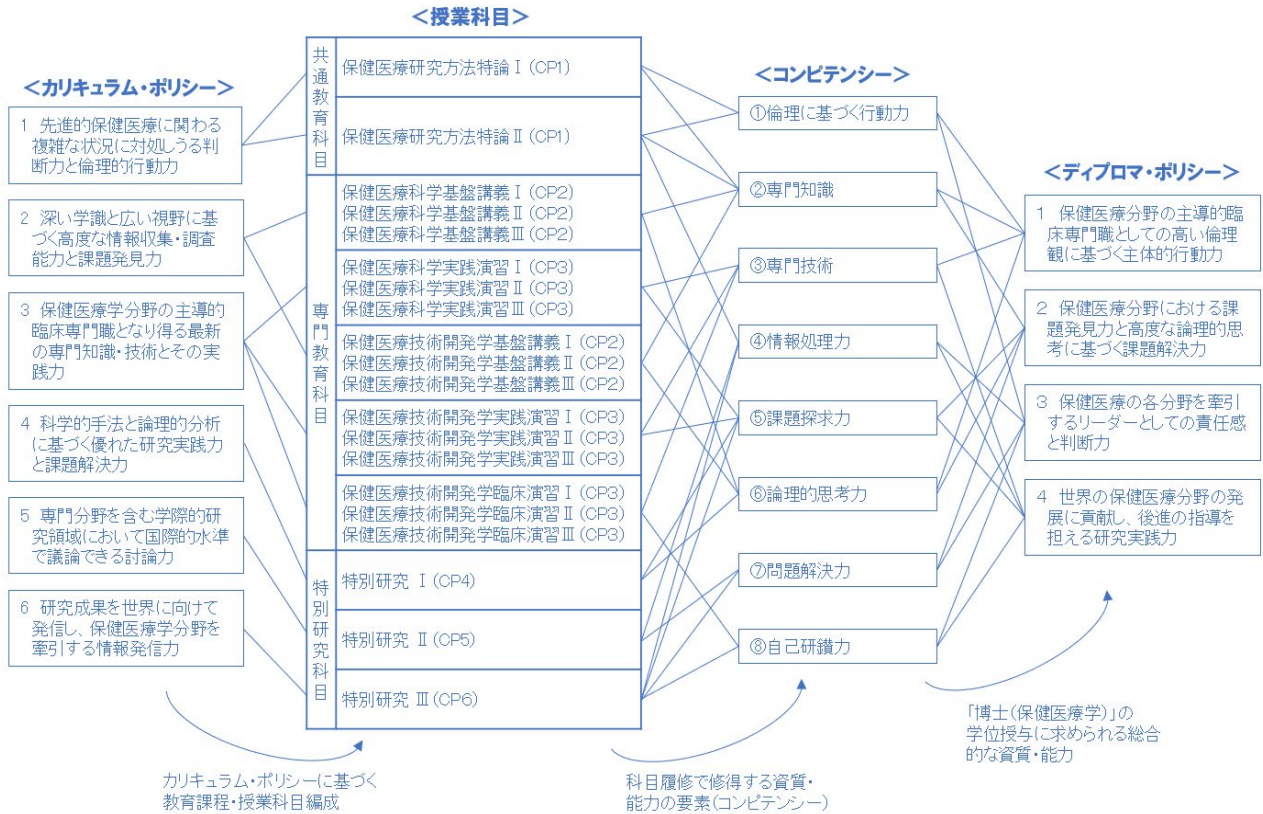
(対応)

本課程においては養成する人材像から4つのディプロマ・ポリシーを設定しており、ディプロマ・ポリシーを達成するために6つのカリキュラム・ポリシーを設定している。この関係が示されていないとのご指摘を踏まえ、「3 教育課程の編成の考え方及び特色」においてディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成・実施の方針をカリキュラム・ポリシーとして示した。カリキュラム・ポリシーのもとに、3つの区分(共通教育科目、専門教育科目、特別研究科目)を設定し、区分ごとに授業科目を配当する。そこで、3つの区分とカリキュラム・ポリシーとの関係を具体的に説明する。

本課程では、教育課程全体を構成する共通教育科目、専門教育科目、特別研究科目の各区分に配当する授業科目を学生が体系的に履修することで身につける行動特性と資質・能力(コンピテンシー)を設定する。コンピテンシーとは、本課程のディプロマ・ポリシーに掲げる行動特性と資質・能力に基づいたものであり、具体的には「倫理に基づく行動力」「専門知識」「専門技術」「情報処理力」「課題探求力」「論理的思考力」「問題解決力」「自己研鑽力」の8項目を設定する。これらのコンピテンシーは、カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程に配当した全ての授業科目の特性に応じて複数項目を紐づけており、学生は授業科目の履修に伴い身につけることができる。カリキュラム・ポリシーと各授業科目の関係及び各授業科目に紐づくコンピテンシーとディプロマ・ポリシーとの関係性を示すことでカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫した整合性を説明する。

以下に、関西医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(博士後期課程)におけるカリキュラム・ポリシー、授業科目、コンピテンシー、ディプロマ・ポリシーの相関図を示す。

関西医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(博士後期課程)
カリキュラム・ポリシー－授業科目－コンピテンシー－ディプロマ・ポリシーの相関図



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (4～5 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>3 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1) 教育課程の編成の基本方針</p> <p>(略)</p> <p>本課程では、この方針に基づき、ディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成・実施の方針をカリキュラム・ポリシーとして次のように設定する。</p> <p>〔保健医療学専攻博士後期課程のカリキュラム・ポリシー〕</p> <p>関西医療大学大学院博士後期課程は、教育課程の中に保健医療や医療倫理に関する幅広く深い知識を涵養する共通教育科目、保健医療学分野における主導的臨床専門職となり得る高度で先進的な技法と知見を学ぶ専門教育科目、並びに主体的な研究実践力と研究成果の発信</p> | <p>3 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1) 教育課程の編成の基本方針</p> <p>(略)</p> <p>(追加)</p> <p>(追加)</p> |

| | |
|--|--|
| <p>力を修得する特別研究科目を体系的に配置して、次世代の保健医療分野を牽引するリーダーに求められる次の資質と能力を養成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 <u>先進的保健医療に関わる複雑な状況に対処しうる判断力と倫理的行動力</u> 2 <u>深い学識と広い視野に基づく高度な情報収集・調査能力と課題発見力</u> 3 <u>保健医療分野の主導的臨床専門職となり得る最新の専門知識・技術とその実践力</u> 4 <u>科学的手法と論理的分析に基づく優れた研究実践力と課題解決力</u> 5 <u>専門分野を含む学際的研究領域において国際的水準で議論できる討論力</u> 6 <u>研究成果を世界に向けて発信し、保健医療学分野を牽引する情報発信力</u> | |
|--|--|

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (5～6 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>2) 教育課程の編成の考え方</p> <p>本学大学院博士後期課程の教育課程は、上述の<u>カリキュラム・ポリシーのもとに編成し、履修の体系性と順序を考慮しつつ、科目全体を「共通教育科目」、「専門教育科目」、「特別研究科目」の3つの区分を設け、その中に授業科目を配当する。</u></p> <p>共通教育科目では、<u>カリキュラム・ポリシー1のもとに、主導的臨床専門職になるために必要な保健医療や医療倫理に関する幅広く深い知識について学修する科目を設定する。この科目に配当する授業科目は必修とし1年次前期に履修する。</u></p> <p>専門教育科目では、<u>カリキュラム・ポリシー2、3のもとに、保健医療分野での主導的臨床専門職となるために必要となる専門的な医学的知識、検査・治療技術に関する講義と演習科目を設定する。優れた基礎研究者、臨床研究者を養成するための基礎知識としてこれらの科目を1年次後期に開講することで、科目履修を通して1年次から円滑に特別研究を進めることが</u></p> | <p>2) 教育課程の編成の考え方</p> <p>本学大学院博士後期課程の教育課程の編成は、上述の<u>基本方針のもとに履修の順序に配慮しつつ、科目全体を「共通教育科目」、「専門教育科目」、「特別研究科目」に分ける。</u></p> <p>共通教育科目2科目は必修とし<u>1年次前期に履修する。この科目では、主導的臨床専門職になるために必要な保健医療や医療倫理に関する幅広く深い知識について学修する。</u></p> <p>専門教育科目は保健医療分野での主導的臨床専門職となるために必要となる専門的な医学的知識、検査・治療技術に関する講義と演習を設定する。<u>これらの科目は優れた基礎研究者、臨床研究者を養成するための基礎知識として1年次後期に開講することで、科目履修を通して特別研究を1年次から円滑に進めることができる。</u></p> |

できる。

特別研究科目は、共通教育科目、専門教育科目の履修を踏まえて、カリキュラム・ポリシー4、5、6のもと、研究論文を作成するための研究活動を中心とする科目であり、1年次より履修する特別研究Ⅰ、2年次には特別研究Ⅱ、3年次には特別研究Ⅲを配当する。1年次より研究指導教員の指導を受けることで、早い段階から研究の準備を始めることとする。

1年次後期から専門教育科目を学ぶことで、特別研究の遂行に必要な知識・技術を早期に修得できることが本教育課程の特色であり、教育課程編成の重要なポイントとなる。

なお、共通教育科目、専門教育科目、特別研究科目の各区分には、具体的に下表に示す授業科目を年次配当する。

博士後期課程の教育課程表

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | |
|--------|----------------------------|--|-------|----|-------|----|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 共通教育科目 | 保健医療研究方法特論Ⅰ 保健医療研究方法特論Ⅱ | | | | | |
| 専門教育科目 | | 保健医療科学基礎講義Ⅰ 保健医療科学基礎講義Ⅱ 保健医療科学基礎講義Ⅲ 保健医療科学実証演習Ⅰ 保健医療科学実証演習Ⅱ 保健医療科学実証演習Ⅲ 保健医療技術開発学基礎講義Ⅰ 保健医療技術開発学基礎講義Ⅱ 保健医療技術開発学基礎講義Ⅲ 保健医療技術開発学実証演習Ⅰ 保健医療技術開発学実証演習Ⅱ 保健医療技術開発学実証演習Ⅲ 保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ 保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ 保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ | | | | |
| 特別研究科目 | 特別研究Ⅰ | | 特別研究Ⅱ | | 特別研究Ⅲ | |

特別研究科目は研究論文を作成するための研究活動が中心であり、1年次より履修する特別研究Ⅰ、2年次には特別研究Ⅱ、3年次には特別研究Ⅲを履修する。1年次より研究指導教員の指導を受けることで、早い段階から研究の準備を始めることとする。

1年次後期で専門教育科目を学ぶことで、特別研究に必要な知識・技術を早期に修得できることが本教育課程の特色として重要なポイントとなる。

(追加)

博士後期課程の教育課程表

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | |
|--------|----------------------------|---|-------|----|-------|----|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 共通教育科目 | 保健医療研究方法特論Ⅰ 保健医療研究方法特論Ⅱ | | | | | |
| 専門教育科目 | | 保健医療科学基礎講義 保健医療科学実証演習 保健医療技術開発学基礎講義 保健医療技術開発学実証演習 保健医療技術開発学臨床演習 | | | | |
| 特別研究科目 | 特別研究Ⅰ | | 特別研究Ⅱ | | 特別研究Ⅲ | |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (6～7 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>3) 教育課程の編成の特色</p> <p>①共通教育科目の必修2科目によって、全ての学生を対象として保健医療に関する基礎知識、研究の具体的手法、研究遂行に必要な統計手法、研究倫理の遵守事項について修得させ、専門教育科目、特別研究科目を履修するための知識・技術・倫理の基盤を築く。この履修を通して関連分野の総合的な視野と知識を得ることができる。</p> <p>②専門教育科目では、保健医療分野での主導的臨床専門職の育成に必要な知識を用いて学際的な立場から研究活動を遂行することができる。</p> | <p>3) 教育課程の編成の特色</p> <p>①共通教育科目の必修1科目によって、すべての学生を対象として保健医療に関する基礎知識、研究の具体的手法、研究遂行に必要な統計手法、研究倫理の遵守事項について修得させ、専門教育科目、特別研究科目を履修するための知識・技術・倫理の基盤を築く。この履修を通して関連分野の総合的な視野と知識を得ることができる。</p> <p>②専門教育科目では、保健医療分野での主導的臨床専門職の育成に必要な知識を用いて学際的な立場から研究活動を遂行することができる。</p> |

るよう、また本学大学院修士課程からの接続を考慮すると研究の専門領域が3つに分けられており、修士課程の履修を基に博士後期課程においてさらに高度で専門的な履修及び同じ専門領域の研究が可能となるようにするため「保健医療科学基盤講義Ⅰ」、「保健医療科学基盤講義Ⅱ」、「保健医療科学基盤講義Ⅲ」の3科目、「保健医療科学実践演習Ⅰ」、「保健医療科学実践演習Ⅱ」、「保健医療科学実践演習Ⅲ」の3科目で合計6科目を設定した。

また、保健医療科学領域の職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼に置いた科目として「保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅲ」の3科目、「保健医療技術開発学実践演習Ⅰ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅱ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅲ」の3科目で合計6科目を設定した。これらの科目も研究専門領域ごとになっており、学生の目指す専門領域にあわせた履修モデル（後述）に基づいた選択が可能である。

設定した12科目は全て選択科目であるが、研究指導教員との話し合いにより、研究テーマに近い講義科目1科目、演習科目1科目の2科目を選択することが必要となる。この科目履修により、専門的な分野をより深く追求して質の高い博士論文の作成につなげることを目的とする。

③専門教育科目には、②で述べた科目のほかに、高度な専門性を必要とされる臨床業務に携わる人材の育成を主眼に置いた科目として、臨床演習に関する科目について研究専門領域ごとに「保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ」を設定している。この臨床演習は附属保健医療施設や大学院の関連施設を活用し、はり師・きゅう師、理学療法士、作業療法士等が行う最先端の治療技術を高めることを目的にしている。

④本学大学院博士後期課程の最重要履修科目である特別研究科目では、1年前期の共通教育科目で学修した主導的臨床専門職になるために必要な幅広い知識、高い倫理観を基に段階的に発

るよう、「保健医療科学基盤講義」「保健医療科学実践演習」の科目を設定した。

また、保健医療分野の職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼に置いた「保健医療技術開発学基盤講義」「保健医療技術開発学実践演習」の2科目を設定した。これらの4科目は全て選択科目であるが、これらのうち2科目を選択することが必要となり、科目の選択には、研究指導教員との話し合いにより、研究テーマに近い科目を選択することで、専門的な分野をより深く追求して質の高い博士論文の作成につなげることを目的とする。

③また、高度な専門性を必要とされる臨床業務に携わる人材の育成を主眼に置いた科目として、臨床演習に関する科目「保健医療技術開発学臨床演習」を設定している。この臨床演習は附属保健医療施設や大学院の関連施設を活用し、鍼灸師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師等が行う最先端の治療技術を高めることを目的にしている。

④本学大学院博士後期課程の最重要履修科目である特別研究科目の内容は、1年前期の共通教育科目で学修した主導的臨床専門職になるために必要な幅広い知識、高い倫理観を基に徐々にリ

| | |
|--|--|
| <p>展するリサーチワークの学修を行う。</p> <p>1年次の特別研究Ⅰでは、研究指導教員の指導のもとで研究テーマの設定、先行研究レビュー、リサーチ・クエスチョンの設定など研究に必要な基本的な作業能力の修得を行う。</p> <p>2年次の特別研究Ⅱでは、具体的な研究方法の確立、研究倫理審査書類の作成、研究実施、データ解析、考察、論文作成を目指す。</p> <p><u>(削除)</u></p> <p>3年次の特別研究Ⅲでは、作成した論文を学術雑誌（査読付き英文誌）に投稿し、査読への対応、成果発表、博士論文提出まで指導する。</p> | <p>サーチワークの学修を行う。</p> <p>1年次の特別研究Ⅰでは、研究指導教員の指導のもとで研究テーマの設定、先行研究レビュー、リサーチ・クエスチョンの設定など研究に必要な基本的な作業能力の修得を行う。</p> <p>2年次の特別研究Ⅱでは、具体的な研究方法の確立、研究倫理審査書類の作成、研究実施、データ解析、考察、論文作成を目指す。<u>特論講義、特論演習の内容が特別研究につながるようなカリキュラム構成になっている。</u></p> <p>3年次の特別研究Ⅲでは、作成した論文を学術雑誌（英文誌）に投稿し、査読への対応、成果発表、博士論文提出まで指導する。</p> |
|--|--|

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (7～8 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|-------------|
| <p><u>4) カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性</u></p> <p><u>本課程では、教育課程全体を構成する共通教育科目、専門教育科目、特別研究科目の各科目区分に配当する授業科目を学生が体系的に履修することで身につけることを目指す行動特性と資質・能力としてのコンピテンシーを設定する。このコンピテンシーとは、本課程のディプロマ・ポリシーに掲げる行動特性と資質・能力に基づいたものであり、具体的には「倫理に基づく行動力」「専門知識」「専門技術」「情報処理力」「課題探求力」「論理的思考力」「問題解決力」「自己研鑽力」の8項目を設定する。これらのコンピテンシーは、下表のとおりカリキュラム・ポリシーに基づく教育課程に配当した全ての科目の特性に応じて複数項目を紐づけており、学生は科目の履修に伴い身につけることができる。</u></p> | <p>(追加)</p> |

博士後期課程の開講科目とコンピテンシー

| 科目区分 | 授業科目の名称 | コンピテンシー |
|--------|--------------------|-------------------------|
| 共通教育科目 | 保健医療研究方法特論Ⅰ | 倫理に基づく行動力 専門知識 |
| | 保健医療研究方法特論Ⅱ | 倫理に基づく行動力 専門知識 情報処理力 |
| 専門教育科目 | 保健医療科学基礎講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ | 専門知識 論理的思考力 |
| | 保健医療科学実践演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ | 専門技術 課題探究力 |
| | 保健医療技術開発学基礎講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ | 専門知識 論理的思考力 |
| | 保健医療技術開発学実践演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ | 専門技術 課題探究力 |
| | 保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ | 専門技術 自己研鑽力 |
| 特別研究科目 | 特別研究Ⅰ | 課題探究力 論理的思考力 |
| | 特別研究Ⅱ | 情報処理力 問題解決力 |
| | 特別研究Ⅲ | 情報処理力 課題探究力 問題解決力 自己研鑽力 |

また、本課程のディプロマ・ポリシーと各コンピテンシーの対応は下表に示すとおりである。学生は各年次に配当した科目を履修することで科目の特性に応じて紐づいた各コンピテンシーを段階的に取得していき、ディプロマ・ポリシーの達成と学位の取得を目指すことができる。

博士後期課程 ディプロマ・ポリシー（DP）と8つのコンピテンシーとのマッチング一覧

| ディプロマ・ポリシー | 8つのコンピテンシー | | | | | | | |
|--------------------------------------|------------|-------|-------|--------|--------|---------|--------|--------|
| | ①倫理に基づく行動力 | ②専門知識 | ③専門技術 | ④情報処理力 | ⑤課題探究力 | ⑥論理的思考力 | ⑦問題解決力 | ⑧自己研鑽力 |
| 1 保健医療分野の主導的臨床専門職としての高い倫理観に基づく主体的行動力 | ● | ● | ● | | | ● | | |
| 2 保健医療分野における課題発見力と高度な論理的思考に基づく課題解決力 | | ● | | | ● | ● | ● | |
| 3 保健医療の各分野を牽引するリーダーとしての責任感と判断力 | ● | | | ● | | | ● | ● |
| 4 世界の保健医療分野の発展に貢献し、後進の指導を担える研究実践力 | | | ● | ● | ● | | | ● |

関西医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻（博士後期課程）カリキュラム・ポリシー—授業科目—コンピテンシー—ディプロマ・ポリシーの相関図（前記）

博士後期課程の開講科目とコンピテンシー

| 科目区分 | 授業科目の名称 | コンピテンシー |
|--------|---------------|-------------------|
| 共通教育科目 | 保健医療研究方法特論Ⅰ | 倫理に基づく行動力 専門知識 |
| | 保健医療研究方法特論Ⅱ | 倫理に基づく行動力 情報処理力 |
| 専門教育科目 | 保健医療科学基礎講義 | 専門知識 論理的思考力 |
| | 保健医療科学実践演習 | 専門技術 課題探究力 |
| | 保健医療技術開発学基礎講義 | 専門知識 論理的思考力 |
| | 保健医療技術開発学実践演習 | 専門技術 課題探究力 |
| | 保健医療技術開発学臨床演習 | 専門技術 自己研鑽力 |
| 特別研究科目 | 特別研究Ⅰ | 課題探究力 論理的思考力 |
| | 特別研究Ⅱ | 情報処理力 課題解決力 |
| | 特別研究Ⅲ | 情報処理力 課題解決力 自己研鑽力 |

(追加)

博士後期課程 ディプロマ・ポリシー（DP）と8つのコンピテンシーとのマッチング一覧

| ディプロマ・ポリシー | 8つのコンピテンシー | | | | | | | |
|--------------------------------------|------------|-------|-------|--------|--------|---------|--------|--------|
| | ①倫理に基づく行動力 | ②専門知識 | ③専門技術 | ④情報処理力 | ⑤課題探究力 | ⑥論理的思考力 | ⑦問題解決力 | ⑧自己研鑽力 |
| 1 保健医療分野の主導的臨床専門職としての高い倫理観に基づく主体的行動力 | ● | ● | ● | | | | | |
| 2 保健医療分野における課題発見力と高度な論理的思考に基づく課題解決力 | | | | | ● | ● | ● | |
| 3 保健医療の各分野を牽引するリーダーとしての責任感と判断力 | ● | | | ● | | | ● | |
| 4 世界の保健医療分野の発展に貢献し、後進の指導を担える研究実践力 | | | | ● | ● | | | ● |

(追加)

(是正事項) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (D)

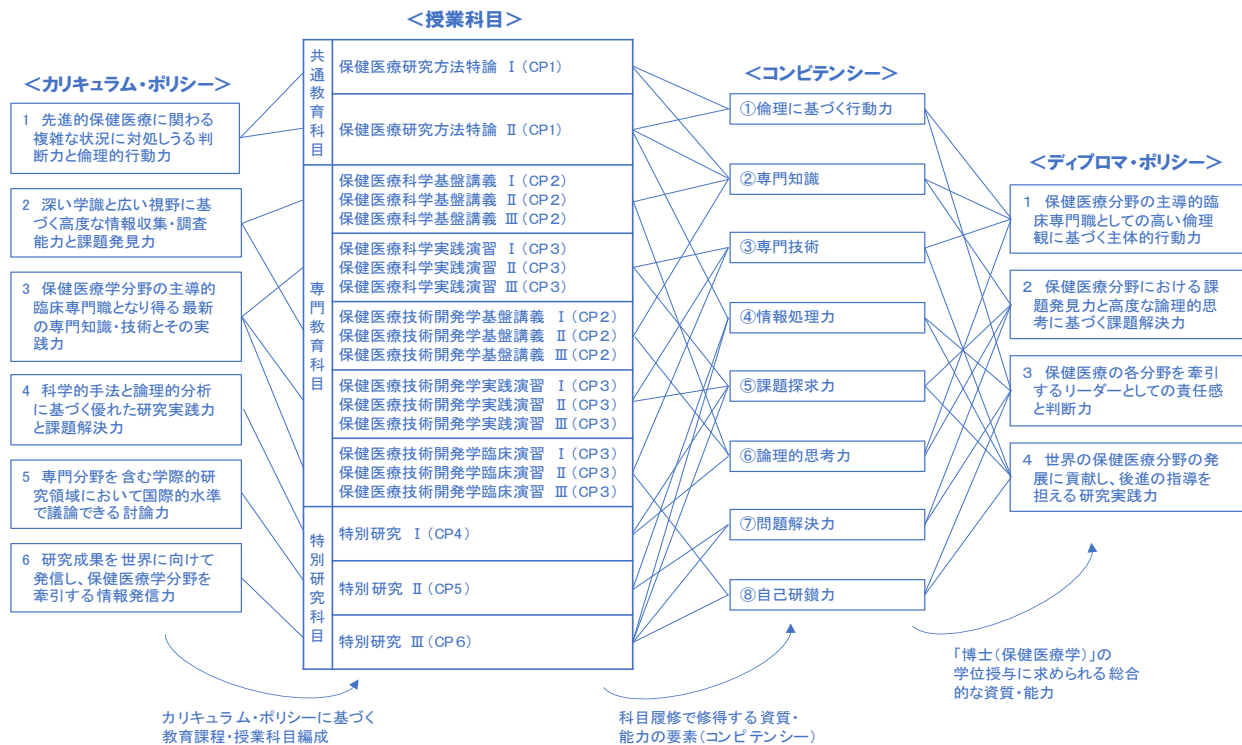
2. 審査意見1のとおり、カリキュラム・ポリシーの妥当性について疑義があるため、教育課程が適切に編成されているか判断をすることができない。このため、審査意見1への対応を踏まえて、本専攻の教育課程が、適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的が担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見1の対応で説明したように、ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム・ポリシーのもとに、3つの区分(共通教育科目、専門教育科目、特別研究科目)を設定し、授業科目を配当している。これらの授業科目はディプロマ・ポリシーに掲げる行動特性と資質・能力に基づいた8つのコンピテンシーに紐づけている。8つのコンピテンシーはカリキュラム・ポリシーに基づく教育課程に配当した全ての授業科目の特性に応じて複数項目を紐づけており、学生は授業科目の履修に伴い身につけることができる。学生にはカリキュラム・ポリシーを実現するための年次ごとの授業科目配当についてカリキュラムマップを作成し説明する。このようなカリキュラム・ポリシーと各授業科目の関係及び各授業科目に紐づくコンピテンシーとディプロマ・ポリシーとの関係性から、本教育課程は修得すべき知識や能力等に係る教育を網羅するとともに体系的を担保しており、適切な編成であると考えられる。

以下に、関西医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(博士後期課程)におけるカリキュラム・ポリシー、授業科目、コンピテンシー、ディプロマ・ポリシーの相関図及びカリキュラムマップを示す。

関西医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(博士後期課程)
カリキュラム・ポリシー－授業科目－コンピテンシー－ディプロマ・ポリシーの相関図



保健医療学研究科のカリキュラム・ポリシー
〔教育課程編成・実施の方針〕

関西医療大学大学院博士後期課程は、教育課程の中に保健医療や医療倫理に関する幅広い深い知識を涵養する共通教育科目、保健医療学分野における主導的専門家となり得る高度で先進的な技法と知見を学ぶ専門教育科目、ならびに主体的な研究実践力と研究成果の発信力を修得する特別研究科目を体系的に配置して、次世代の保健医療分野を牽引するリーダーに求められる次の資質と能力を養成する。

- 1 先進的保健医療に関わる複雑な状況に対処しうる判断力と倫理的行動力
- 2 深い学識と広い視野に基づく高度な情報収集・調査能力と課題発見力
- 3 保健医療分野の主導的指導者となり得る最新の専門知識・技術とその実践力
- 4 科学的手法と論理的分析に基づく優れた研究実践力と課題解決力
- 5 専門分野を含む学際的研究領域において国際的な水準で議論できる討論力
- 6 研究成果を世界に向けて発信し、保健医療学分野を牽引する情報発信力

(●印は必修科目)

| 区分 | 1年次相当科目 | | 2年次相当科目 | | 3年次相当科目 | |
|--------|------------------------------|--|----------|----------|----------|----------|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| | 科目 | 科目 | 科目 | 科目 | 科目 | 科目 |
| 共通教育科目 | ●保健医療研究方法特論Ⅰ ●保健医療研究方法特論Ⅱ | | | | | |
| 専門教育科目 | | 保健医療科学基礎講義Ⅰ 保健医療科学基礎講義Ⅱ 保健医療科学基礎講義Ⅲ | | | | |
| | | 保健医療科学実践演習Ⅰ 保健医療科学実践演習Ⅱ 保健医療科学実践演習Ⅲ | | | | |
| | | 保健医療技術開発学基礎講義Ⅰ 保健医療技術開発学基礎講義Ⅱ 保健医療技術開発学基礎講義Ⅲ | | | | |
| | | 保健医療技術開発学実践演習Ⅰ 保健医療技術開発学実践演習Ⅱ 保健医療技術開発学実践演習Ⅲ | | | | |
| | | 保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ 保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ 保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ | | | | |
| | | | | | | |
| 特別研究科目 | ●特別研究科目Ⅰ | ●特別研究科目Ⅰ | ●特別研究科目Ⅱ | ●特別研究科目Ⅱ | ●特別研究科目Ⅲ | ●特別研究科目Ⅲ |

【取得できる学位】博士（保健医療学）

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (9 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>4 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件</p> <p>1) 保健医療学専攻博士後期課程のカリキュラムマップ</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> | <p>4 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件</p> <p>1) 保健医療学専攻博士後期課程のカリキュラム・ポリシー</p> <p><u>本学大学院博士後期課程の教育方法の方針であるカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を以下に示す。</u></p> <p><u>〔保健医療学専攻博士後期課程のカリキュラム・ポリシー〕</u></p> <p><u>関西医療大学大学院博士後期課程は、教育課程の中に保健医療や医療倫理に関する幅広く深い知識を涵養する共通教育科目、保健医療分野における主導的臨床専門職となり得る高度で先進的な技法と知見を学ぶ専門教育科目、並びに主体的な研究実践力と研究成果の発信力を修得する特別研究科目を体系的に配置して、次世代の保健医療分野を牽引するリーダーに求められる次の資質と能力を養成します。</u></p> |

- 1 先進的保健医療に関わる複雑な状況に対処しうる判断力と倫理的行動力
- 2 深い学識と広い視野に基づく高度な情報収集・調査能力と課題発見力
- 3 保健医療分野の主導的臨床専門職となり得る最新の専門知識・技術とその実践力
- 4 科学的手法と論理的分析に基づく優れた研究実践力と課題解決力
- 5 専門分野を含む学際的研究領域において国際的水準で議論できる討論力
- 6 研究成果を世界に向けて発信し、保健医療分野を牽引する情報発信力

カリキュラム・ポリシーを実現するための年次ごとの科目配当について表したカリキュラムマップを示す【資料4】。カリキュラムマップは学生がカリキュラム・ポリシーに沿った教育課程編成の全体像を把握することができるツールとして有用であり、本課程における履修指導の一環として、入学直後の学生に対する本課程の説明資料として活用する。

カリキュラム・ポリシーを実現するための科目設定について【資料4】のとおりカリキュラムマップを示す。

資料4

関西医科大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程 カリキュラムマップ

保健医療学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

関西医科大学大学院博士後期課程は、保健医療の中核領域や先端領域に関する幅広い深い知識を必要とする高度な学識・倫理的行動力、深い学識と広い視野に基づく高度な情報収集・調査能力と課題発見力、最新の専門知識・技術とその実践力、科学的手法と論理的分析に基づく優れた研究実践力と課題解決力、専門分野を含む学際的研究領域において国際的水準で議論できる討論力、研究成果を世界に向けて発信し、保健医療分野を牽引する情報発信力。

- 1 深い学識と広い視野に基づく高度な情報収集・調査能力と課題発見力
- 2 最新の専門知識・技術とその実践力
- 3 保健医療分野の主導的臨床専門職となり得る最新の専門知識・技術とその実践力
- 4 科学的手法と論理的分析に基づく優れた研究実践力と課題解決力
- 5 専門分野を含む学際的研究領域において国際的水準で議論できる討論力
- 6 研究成果を世界に向けて発信し、保健医療分野を牽引する情報発信力

●併修必須科目

| 区分 | 1年次後期 | | 2年次後期 | | 3年次後期 | |
|--------|-------------|----|----------|----|----------|----|
| | 科目 | 単位 | 科目 | 単位 | 科目 | 単位 |
| 共通科目 | ●保健医療研究法特論Ⅰ | | | | | |
| 共通科目 | ●保健医療研究法特論Ⅱ | | | | | |
| 専門科目 | 保健医療研究法特論Ⅲ | | | | | |
| | 保健医療研究法特論Ⅳ | | | | | |
| | 保健医療研究法特論Ⅴ | | | | | |
| | 保健医療研究法特論Ⅵ | | | | | |
| | 保健医療研究法特論Ⅶ | | | | | |
| | 保健医療研究法特論Ⅷ | | | | | |
| | 保健医療研究法特論Ⅷ | | | | | |
| | 保健医療研究法特論Ⅷ | | | | | |
| | 保健医療研究法特論Ⅷ | | | | | |
| | 保健医療研究法特論Ⅷ | | | | | |
| 特別研究科目 | ●特別研究科目Ⅰ | | ●特別研究科目Ⅱ | | ●特別研究科目Ⅲ | |
| | ●特別研究科目Ⅳ | | ●特別研究科目Ⅴ | | ●特別研究科目Ⅵ | |

【取得できる学位】博士（保健医療学）

資料4

関西医科大学大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻 博士後期課程 カリキュラムマップ

保健医療学専攻のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

関西医科大学大学院博士後期課程は、保健医療の中核領域や先端領域に関する幅広い深い知識を必要とする高度な学識・倫理的行動力、深い学識と広い視野に基づく高度な情報収集・調査能力と課題発見力、最新の専門知識・技術とその実践力、科学的手法と論理的分析に基づく優れた研究実践力と課題解決力、専門分野を含む学際的研究領域において国際的水準で議論できる討論力、研究成果を世界に向けて発信し、保健医療分野を牽引する情報発信力。

- 1 深い学識と広い視野に基づく高度な情報収集・調査能力と課題発見力
- 2 最新の専門知識・技術とその実践力
- 3 保健医療分野の主導的臨床専門職となり得る最新の専門知識・技術とその実践力
- 4 科学的手法と論理的分析に基づく優れた研究実践力と課題解決力
- 5 専門分野を含む学際的研究領域において国際的水準で議論できる討論力
- 6 研究成果を世界に向けて発信し、保健医療分野を牽引する情報発信力

●併修必須科目

| 区分 | 1年次後期 | | 2年次後期 | | 3年次後期 | |
|--------|-------------|----|----------|----|----------|----|
| | 科目 | 単位 | 科目 | 単位 | 科目 | 単位 |
| 共通科目 | ●保健医療研究法特論Ⅰ | | | | | |
| 共通科目 | ●保健医療研究法特論Ⅱ | | | | | |
| 専門科目 | ●保健医療研究法特論Ⅲ | | | | | |
| | ●保健医療研究法特論Ⅳ | | | | | |
| | ●保健医療研究法特論Ⅴ | | | | | |
| | ●保健医療研究法特論Ⅵ | | | | | |
| | ●保健医療研究法特論Ⅶ | | | | | |
| | ●保健医療研究法特論Ⅷ | | | | | |
| | ●保健医療研究法特論Ⅷ | | | | | |
| | ●保健医療研究法特論Ⅷ | | | | | |
| | ●保健医療研究法特論Ⅷ | | | | | |
| | ●保健医療研究法特論Ⅷ | | | | | |
| 特別研究科目 | ●特別研究科目Ⅰ | | ●特別研究科目Ⅱ | | ●特別研究科目Ⅲ | |
| | ●特別研究科目Ⅳ | | ●特別研究科目Ⅴ | | ●特別研究科目Ⅵ | |

【取得できる学位】博士（保健医療学）

3. 基本計画書の「教育課程等の概要」の専門教育科目には「保健医療科学基盤講義」、「保健医療科学実践演習」、「保健医療技術開発学基盤講義」、「保健医療技術開発学実践演習」、「保健医療技術開発学臨床演習」について、それぞれ1つの授業科目を複数の専任教員等によって共同で行うものとして記載されている。しかしながら、各授業科目のシラバスを見ると、例えば、「保健医療科学基盤講義」については担当教員と内容の異なる3種類のシラバスとなっており、基本計画書の「教育課程等の概要」で記載されたような1つの授業科目を複数の教員が共同で行うものとなっていないように見受けられる。また、授業内容が異なるのであれば授業名称を分けることが適切であり、授業内容が異なる同一の授業科目名称は履修する学生にとってもわかりづらいものであり、妥当であるとは判断できない。このため、担当教員ごとに異なる授業内容を、同一の授業科目として設定することの妥当性について明確に説明するとともに、必要に応じてシラバス等の関係する資料の記載等を含めて適切に改めること。

(対応)

専門教育科目は、学生の研究テーマに応じて研究指導教員及び研究指導補助教員が担当することをイメージしていたため、大括りにした一つの授業科目の中に異なった専門領域の授業科目のシラバスが存在していた。ご指摘を踏まえ、5科目の専門教育科目は専門領域から、各々3つの授業科目に分けることとする。そのため、「保健医療科学基盤講義」は「保健医療科学基盤講義Ⅰ」、「保健医療科学基盤講義Ⅱ」、「保健医療科学基盤講義Ⅲ」の3科目、「保健医療科学実践演習」は「保健医療科学実践演習Ⅰ」、「保健医療科学実践演習Ⅱ」、「保健医療科学実践演習Ⅲ」の3科目、「保健医療技術開発学基盤講義」は「保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅲ」の3科目、「保健医療技術開発学実践演習」は「保健医療技術開発学実践演習Ⅰ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅱ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅲ」の3科目、「保健医療技術開発学臨床演習」は「保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ」の3科目とする。

以下に、変更後の授業科目の編成表を示す。この変更に合わせてシラバスも変更する(資料1 シラバス新旧対照表)。

授業科目の編成

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | 授業形態 | 学年 | 開講時期 | 必修/選択 |
|--------|----------------|-----|------|----|------|-------|
| 共通教育科目 | 保健医療研究方法特論Ⅰ | 2 | 講義 | 1年 | 前期 | 必修 |
| | 保健医療研究方法特論Ⅱ | 2 | 講義 | 1年 | 前期 | 必修 |
| 専門教育科目 | 保健医療科学基盤講義Ⅰ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学基盤講義Ⅱ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学基盤講義Ⅲ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学実践演習Ⅰ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学実践演習Ⅱ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学実践演習Ⅲ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学基盤講義Ⅲ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学実践演習Ⅰ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学実践演習Ⅱ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学実践演習Ⅲ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| 特別研究科目 | 特別研究Ⅰ | 4 | 演習 | 1年 | 前後期 | 必修 |
| | 特別研究Ⅱ | 4 | 演習 | 2年 | 前後期 | 必修 |
| | 特別研究Ⅲ | 4 | 演習 | 3年 | 前後期 | 必修 |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (6~7 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>3) 教育課程の編成の特色</p> <p>②専門教育科目では、保健医療分野での主導的臨床専門職の育成に必要な知識を用いて学際的な立場から研究活動を遂行することができるよう、また本学大学院修士課程からの接続を考慮すると研究の専門領域が 3 つに分けられており、修士課程の履修を基に博士後期課程においてさらに高度で専門的な履修及び同じ専門領域の研究が可能となるようにするため「保健医療科学基盤講義Ⅰ」、「保健医療科学基盤講義Ⅱ」、「保健医療科学基盤講義Ⅲ」の 3 科目、「保健医療科学実践演習Ⅰ」、「保健医療科学実践演習Ⅱ」、「保健医療科学実践演習Ⅲ」の 3 科目で合計 6 科目を設定した。</p> <p>また、保健医療科学領域の職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼に置いた科目として「保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅲ」の 3 科目、「保健医療技術開発学実践演習Ⅰ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅱ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅲ」の 3 科目で合計 6 科目を設定した。これらの科目も研究専門領域ごとになっており、学生の目指す専門領域にあわせた履修モデル(後述)に基づいた選択が可能である。</p> <p>設定した 12 科目は全て選択科目であるが、研究指導教員との話し合いにより、研究テーマに近い講義科目 1 科目、演習科目 1 科目の 2 科目を選択することが必要となる。この科目履修により、専門的な分野をより深く追求して質の高い博士論文の作成につなげることを目的とする。</p> <p>③専門教育科目には、②で述べた科目のほかに、高度な専門性を必要とされる臨床業務に携わる人材の育成を主眼に置いた科目として、臨床演習に関する科目について研究専門領域ごとに「保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ」を設定している。この臨床演習は附属保健医療施設や大学院の関連施設を活用し、はり師・きゆう師、理学療法士、作業</p> | <p>3) 教育課程の編成の特色</p> <p>②専門教育科目では、保健医療分野での主導的臨床専門職の育成に必要な知識を用いて学際的な立場から研究活動を遂行することができるよう、「保健医療科学基盤講義」「保健医療科学実践演習」の科目を設定した。</p> <p>また、保健医療分野の職種の高度な専門性を必要とされる業務に携わる人材の育成を主眼に置いた「保健医療技術開発学基盤講義」「保健医療技術開発学実践演習」の 2 科目を設定した。</p> <p>これらの 4 科目は全て選択科目であるが、これらのうち 2 科目を選択することが必要となり、科目の選択には、研究指導教員との話し合いにより、研究テーマに近い科目を選択することで、専門的な分野をより深く追求して質の高い博士論文の作成につなげることを目的とする。</p> <p>③また、高度な専門性を必要とされる臨床業務に携わる人材の育成を主眼に置いた科目として、臨床演習に関する科目「保健医療技術開発学臨床演習」を設定している。この臨床演習は附属保健医療施設や大学院の関連施設を活用し、鍼灸師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師等が行う最先端の治療技術を高めることを目的にしている。</p> |

療法士等が行う最先端の治療技術を高めることを目的にしている。

授業科目の編成

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | 授業形態 | 学年 | 開講時期 | 必修/選択 |
|----------------|----------------|-----|------|----|------|-------|
| 共通教育科目 | 保健医療研究方法特論Ⅰ | 2 | 講義 | 1年 | 前期 | 必修 |
| | 保健医療研究方法特論Ⅱ | 2 | 講義 | 1年 | 前期 | 必修 |
| 専門教育科目 | 保健医療科学基礎講義Ⅰ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学基礎講義Ⅱ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学基礎講義Ⅲ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学実践演習Ⅰ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学実践演習Ⅱ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学実践演習Ⅲ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学基礎講義Ⅰ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学基礎講義Ⅱ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学基礎講義Ⅲ | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学実践演習Ⅰ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学実践演習Ⅱ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学実践演習Ⅲ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| 保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 | |
| 特別研究科目 | 特別研究Ⅰ | 4 | 演習 | 1年 | 前後期 | 必修 |
| | 特別研究Ⅱ | 4 | 演習 | 2年 | 前後期 | 必修 |
| | 特別研究Ⅲ | 4 | 演習 | 3年 | 前後期 | 必修 |

授業科目の編成

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | 授業形態 | 学年 | 開講時期 | 必修/選択 |
|--------|---------------|-----|------|----|------|-------|
| 共通教育科目 | 保健医療研究方法特論Ⅰ | 2 | 講義 | 1年 | 前期 | 必修 |
| | 保健医療研究方法特論Ⅱ | 2 | 講義 | 1年 | 前期 | 必修 |
| 専門教育科目 | 保健医療科学基礎講義 | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療科学実践演習 | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学基礎講義 | 2 | 講義 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学実践演習 | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| | 保健医療技術開発学臨床演習 | 2 | 演習 | 1年 | 後期 | 選択 |
| 特別研究科目 | 特別研究Ⅰ | 4 | 演習 | 1年 | 前後期 | 必修 |
| | 特別研究Ⅱ | 4 | 演習 | 2年 | 前後期 | 必修 |
| | 特別研究Ⅲ | 4 | 演習 | 3年 | 前後期 | 必修 |

4. シラバスを見ると、多くの授業科目の「成績評価方法と基準」において、「授業への取り組み、授業課題のプレゼンテーション能力を総合的に評価する」と記載されているが、各授業科目において、授業への取り組み度や、プレゼンテーション能力をどのような基準や方法により評価するのか記載がなく、「成績評価方法と基準」として適切な記載となっているのか判断することができない。また、各授業科目における評価全体に対する、それぞれの評価基準の配点割合なども示されていないことから、どのような点を重視して評価するのか、学生が履修するに当たって適切に理解できるものとなっているとは判断できない。このことから、授業科目ごとの評価の基準や、評価全体に占める具体的な評価基準ごとの配点割合などを明確に説明するとともに、必要に応じてシラバス等の関係する資料の記載等を含めて適切に改めること。

(対応)

成績評価方法と基準が適切な記載になっていないとのご指摘を踏まえ、成績評価の基準と授業科目に応じた成績評価方法を「共通教育科目」、「専門教育科目」、「特別研究科目」の区分ごとに設定する。

成績評価は「大学院学則 (案)」第 30 条に準じて S、A、B、C、D をもって表わし、C 以上を合格とする。成績評価の基準は次のとおりとする。

S : 100 点～90 点 (到達目標を十分に達成し、極めて優秀である)

A : 89 点～80 点 (到達目標を十分に達成している)

B : 79 点～70 点 (到達目標を達成している)

C : 69 点～60 点 (到達目標を概ね達成している)

D : 59 点以下 (到達目標を達成していない)

「共通教育科目」、「専門教育科目」、「特別研究科目」の区分ごとの成績評価全体に占める具体的な評価項目の配点割合は次のとおりとする。

共通教育科目は講義科目のため定期試験とレポート課題で評価を行い、配点割合を「定期試験 70%、レポート課題 30%」とする。

専門教育科目は講義科目と演習科目があり、講義科目である「保健医療科学基盤講義Ⅰ」、「保健医療科学基盤講義Ⅱ」、「保健医療科学基盤講義Ⅲ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅲ」にはプレゼンテーションが含まれるため定期試験とレポート課題に加えプレゼンテーションを評価し、配点割合を「定期試験 60%、レポート課題 20%、プレゼンテーション能力 20%」とする。また、演習科目である「保健医療学実践演習Ⅰ」、「保健医療学実践演習Ⅱ」、「保健医療学実践演習Ⅲ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅰ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅱ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅲ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ」は演習の成果をまとめ、その成果を発表することが重要になるためにレポート課題とプレゼンテーションで評価を行い、配点割合を「レポート課題 50%、プレゼンテーション能力 50%」と設定する。

特別研究科目は、博士論文の内容に関する評価だけでなく、成果を適切に発表することが更に重要になるために、評価を行うレポート課題とプレゼンテーションのうち後者の配点割合を高くし、「レポート課題 40%、プレゼンテーション能力 60%」と設定する。

専門教育科目、特別研究科目ではプレゼンテーション能力を評価対象とするが、これはプレゼンテーションへの「取り組み度」、「資料の完成度」、「内容」、「質疑応答の内容」で評価を行い、「取り組み度」は 5 点、「資料の完成度」は 10 点、「内容」は 20 点、「質疑応答の内容」は 15 点の配点と

して計 50 点満点で評価する。プレゼンテーションへの「取り組み度」は課題に関する文献検索や実験への取り組み回数のようなプレゼンテーションに至るまでの課題に対する取り組む積極性についてルーブリックを用いて定性的に評価し、「資料の完成度」はプレゼンテーション資料の見やすさや資料の内容を評価する。また、「内容」は、発表態度、発表内容（方法、結果、考察）を総合的に評価し、「質疑応答の内容」は発表内容に対する質問に適切に対応できるか、また発展性のある内容であるかを評価する（資料 1 シラバス新旧対照表）。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (11 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>4) 成績評価</p> <p>1 <u>成績評価は S、A、B、C、D をもって表わし、C 以上を合格とする。成績評価の基準は次のとおりとする。</u></p> <p><u>S : 100 点～90 点 (到達目標を十分に達成し、極めて優秀である)</u></p> <p><u>A : 89 点～80 点 (到達目標を十分に達成している)</u></p> <p><u>B : 79 点～70 点 (到達目標を達成している)</u></p> <p><u>C : 69 点～60 点 (到達目標を概ね達成している)</u></p> <p><u>D : 59 点以下 (到達目標を達成していない)</u></p> <p>2 <u>各科目の成績は、シラバスに定める成績評価方法に基づき評価する。</u></p> <p><u>共通教育科目は講義科目のため定期試験とレポート課題で評価を行い、配点割合を定期試験 70%、レポート課題 30%とする。</u></p> <p><u>専門教育科目は講義科目と演習科目があり、講義科目である「保健医療科学基盤講義Ⅰ」、「保健医療科学基盤講義Ⅱ」、「保健医療科学基盤講義Ⅲ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅰ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅱ」、「保健医療技術開発学基盤講義Ⅲ」にはプレゼンテーションが含まれるため定期試験とレポート課題に加えプレゼンテーションを評価し、配点割合を「定期試験 60%、レポート課題 20%、プレゼンテーション能力 20%」とする。また、演習科目である「保健医療学実践演習Ⅰ」、「保健医療学実践演習Ⅱ」、「保健医療学実践演習Ⅲ」、「保健医療技術開発学</u></p> | <p>4) 成績評価 (追加)</p> <p>1 各科目のシラバスに定める成績評価方法に基づき評価する。</p> <p>2 専門教育科目では学生のアクティブラーニングを重視するため、授業での成果発表や質疑応答の内容も評価の判断に加える。</p> |

実践演習Ⅰ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅱ」、「保健医療技術開発学実践演習Ⅲ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅰ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅱ」、「保健医療技術開発学臨床演習Ⅲ」は演習の成果をまとめ、その成果を発表することが重要になるためにレポート課題とプレゼンテーションで評価を行い、配点割合を「レポート課題 50%、プレゼンテーション能力 50%」と設定する。

特別研究科目は、博士論文の内容に関する評価だけでなく、成果を適切に発表することが更に重要になるために、評価を行うレポート課題とプレゼンテーションのうち後者の配点割合を高くし、「レポート課題 40%、プレゼンテーション能力 60%」と設定する。

専門教育科目、特別研究科目ではプレゼンテーション能力を評価対象とするが、これはプレゼンテーションへの「取り組み度」、「資料の完成度」、「内容」、「質疑応答の内容」で評価を行い、「取り組み度」は 5 点、「資料の完成度」は 10 点、「内容」は 20 点、「質疑応答の内容」は 15 点の配点として計 50 点満点で評価する。プレゼンテーションへの「取り組み度」は課題に関する文献検索や実験への取り組み回数のようなプレゼンテーションに至るまでの課題に対する取り組む積極性についてルーブリックを用いて定性的に評価し、「資料の完成度」はプレゼンテーション資料の見やすさや資料の内容を評価する。また、「内容」は、発表態度、発表内容（方法、結果、考察）を総合的に評価し、「質疑応答の内容」は発表内容に対する質問に適切に対応できるか、また発展性のある内容であるかを評価する。

3 特別研究科目では、博士論文の内容に関する評価だけでなく、各年次に実施する発表会での状況、在学中に経験した学会発表と質疑応答の内容、論文投稿した学術雑誌の査読内容とその対応も評価の判断基準とする。

(是正事項) 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (D)

5. 研究指導補助教員数について、大学院設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

大学院設置基準上における研究指導教員 6 名及び研究指導補助教員 6 名の規定は把握している。しかし、申請時には特別研究科目の担当教員の記載は研究指導教員予定者のみと理解していた。

共通教育科目、専門教育科目の担当教員全員が研究指導にあたる予定で考えており、研究指導補助教員予定者の教員についても「審査対象教員一覧」への「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」、「特別研究Ⅲ」の授業科目の担当として記載しシラバスを作成する。また、申請後に本学に入職した教員（教授 1 人）も研究指導教員に適任であると判断し追加申請する。

したがって、教員組織を教授 10 人 (9 人)、准教授 3 人 (3 人)、講師 1 人 (1 人) の計 14 人 (13 人) とする。また、特別研究科目の担当教員を、教授 10 人 (5 人)、准教授 3 人 (2 人)、講師 1 人 (0 人) の計 14 人 (7 人) とする。※括弧の数値は変更前の人数。

(新旧対照表)

| 新 | 旧 |
|-------------------------------------|---------------|
| (資料 2) 教員の氏名等 | (資料 2) 教員の氏名等 |
| (資料 3) 「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」、「特別研究Ⅲ」のシラバス | (追加) |